

山形より一呼軒の義光の所より指し諸事評
定の相違あり一呼軒は為難謀之日上句より在る
べきと云ふ道は相違ひ入る山徒と信ひ月山の事誠
に鳥渡くつ日去疾と如く車海林一家の人質を不
然に捕りては年人佐力と為りけり斗畧
一呼軒山形に帰る義光へ上り今度車海林意と討
つる事最易く山形より去る頃橋岡等の取
合も味方も若干討死を又渠と識る後味方も
れば勝の負りもあつた上りも争ひ證々大諸國

恥ぢり研ぎまがし隣玉が勢儀景祐のためにも悪む所
義氏おとを頼ひつゝは勢い棄てて討死するは申々
あつた事なごうしと云ふは小利を惜みとて大利を
失ふ道理なり而して論初稿一呼軒は附々をたぬ
つ振へ我氏と討つる時如陣の先陣と云ふとすれん
がら字もあつてしとて即尾張守一迫と認め無口
の者兩人湯使者として沼平へまゐりけり状は白く

武任之身女伴法館より今度阿部源三衛尉十郎娘久
遠山延平變つてまゐり死すなり相平も久し父子相忽